

## 神奈川

首都圏中央連絡自動車道路(圏央道)の神奈川県内部分が、2014年度中に全線開通する。これによって県の南北軸と東名高速道路、中央道、関越道などの高速道路が連絡、流通、観光、企業誘致などの面で多大な経済効果が期待される。既に、県央・県北地区では大型物流施設の建設が相次ぎ、アミューズメントパークの大規模リニューアルもスタート。沿線自治体も工業団地の造成などを進め、雇用拡大や地域活性化に結びつけようと動き始めている。

圏央道は、東京都心から半径およそ40~60kmの位置に計画された総延長約300kmの高規格幹線道路で、横浜、厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津などの都市を結び、首都圏の広域的な幹線道路網を形成する首都圏3環状道路の一番外側の環状線として1963年に計画決定された。

「さがみ縦貫道路」と称される神奈川県内部分は延長約30km、茅ヶ崎市西久保から相模原市緑区川尻まで4市1町を貫く計画。2010年、海老名IC(インターチェンジ)~海老名JCT(ジャンクション)が開通し東名高速道路と接続した。今年6月には相模原愛川IC(相模原市)~高尾山IC(八王子市)が開通し中央道、関越道ともつながった。14年度中に海老名JCT~寒川北IC間が開通すると、新湘南バイパスとも接続し、県の南北軸が完成する。

圏央道の開通により、沿線地域ばかりでなく遠隔地との交通利便性は大きく向上する。例えば、東名高速道路の厚木ICから中央道の八王子JCTまで一般道では約1時間20分を要するが、部分開通したさがみ縦貫道路を使うと20分に短縮される。また、中京圏や東海地方から東名高速道路を経由して北関東方面へ向かう車両は、圏央道により都心の交通混雑を避けることができる。

このように時間的に首都圏内に入ったともいえる、県央・県北地区のさがみ縦貫道路沿線では大型物流施設の建設が相次いでいる。ラサール不動産投資顧問と三菱地所は13年8月、相模原愛川ICから約4キロの場所に国内最大級の「ロジポート相模原(相模原市)」を開業。グローバル・ロジス



圏央道海老名ジャンクション、縦に走るのが圏央道(上方が八王子方面)  
(横浜国道事務所提供)

## 圏央道の全線開通控え、 経済効果に期待高まる

ティックス・プロパティーズ日本法人も今年1月、同ICから約1kmの工業団地に24時間稼働の大型物流施設「GLP厚木(愛川町)」を完成した。来年は「ロジポート橋本(相模原市)」や「GLP綾瀬(綾瀬市)」も開業予定。

富士急行が運営するアミューズメントパーク「さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト」は今年7月、プランコ型の絶叫マシン「大空天空」を初めて導入した。さがみ縦貫道路の全線開通によって横浜や湘南、都内などから来園者が増加するとみて、アトラクションを充実させる計画だ。また、年間約200万人の参拝客がある「寒川神社」のお膝元の寒川町は13年11月、観光事業検討協議会を発足させ、同神社を核に商業や農業が一体となった新たな観光拠点づくりを検討し始めるなど、地域の自治体でもツーリズムなどによる地域活性化を検討している。

“圏央道効果”を期待して、企業や研究施設の誘致に力を入れているのは厚木市。企業誘致条例を13年4月に改正し、環境、医療福祉、食品など、雇用拡大が見込める「戦略産業」の立地に対して最大1億円の奨励金を交付することにした。また、受け入れ用地として「森の里東地区土地区画整理事業」の造成工事を14年度から開始、同市の動きは他の市町村にも波及しそうだ。